

## エノキの大木

心字池と管理休憩棟の間にエノキの大木があります。吉田茂は、庭師に頼み、本邸二階から見えるこのエノキの枝先を水平に刈り込ませ、その視線延長上にある富士を際立たせて見せるようにしたと言われています。二階の金の間からは、近景として日本庭園があり、中景として松林、遠景として箱根連山とその向こうに富士山と、「近～中～遠」の景を同時に楽しむことができたため、吉田茂はこの景色を最も愛していました。



剪定したエノキの大木

## カナリーヤシ

内門から日本庭園に入った正面奥に、大きなカナリーヤシがあります。日本庭園で用いることのないこのヤシは、神奈川県議長から吉田茂へ贈られ、中島健の指示のもと、植えられたと言われています。



## 醤油釜

竹林の近くにある大きな釜は、吉田家に伝わる醤油釜です。吉田茂の養父で、実業家であった吉田健三は、醤油製造業も手がけていたと言われています。



釜の縁には、「舎」の屋号が記されています。

## 県立大磯城山公園「旧三井別邸地区」の概要

県立大磯城山公園「旧三井別邸地区」は、湘南丘陵の先端部にあり、明治時代の三井財閥別荘跡地に整備された公園です。当時の面影を感じさせる小径や蔵、三井家の茶室として置かれていた国宝「如庵」にちなんで建てられた茶室「城山庵」、大磯町郷土資料館や横穴式古墳群などがあります。展望台からは相模湾をはじめ富士山、箱根、伊豆半島の山々などが一望できるほか、茶室「城山庵」では抹茶を楽しむことができ、紅葉時期にモミジのライトアップが行われるなど、大磯地域の歴史や文化、自然に親しむことができます。



展望台

11月のモミジライトアップ

城山庵

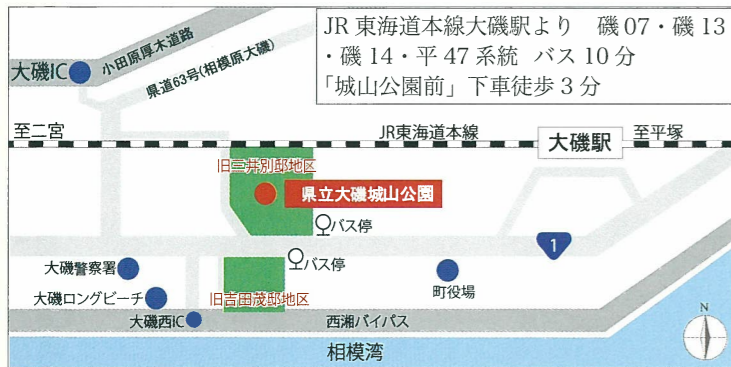
### 利用案内

#### ■旧吉田茂邸地区

- ・開園時間：午前9時から午後5時まで（入園は午後4時45分まで）  
駐車場は土日祝日のみ有料  
※上記時間外及び年末年始は閉園します

#### ■旧吉田茂邸（大磯町郷土資料館別館）

- ・開館時間：午前9時から午後4時30分まで（入館は午後4時まで）
- ・休館日：月曜日・毎月1日・年末年始（12月29日～1月4日）
- ・観覧料：一般510円（460円）中・高校生210円（160円）  
※カッコ内は20名以上の団体料金です



■公園のお問い合わせ先  
**県立大磯城山公園管理事務所**  
 〒259-0111 神奈川県大磯町国府本郷551-1  
 電話 0463-61-0355

■旧吉田茂邸のお問い合わせ先  
**大磯町郷土資料館**  
 〒255-0005 神奈川県大磯町西小磯446-1  
 電話 0463-61-4700



(大磯町郷土資料館所蔵)



写真提供  
 ☆…「写真集吉田茂」（撮影：吉岡専造、発行：（財）吉田茂国際基金、中央公論新社）  
 ※…公益財団法人 神奈川県公園協会

発行：令和4年4月

# 県立大磯城山公園 旧吉田茂邸地区



戦後を代表する内閣総理大臣 吉田茂の足跡をたどり  
 歴史と自然、文化を体験する場所

公益財団法人  
**神奈川県公園協会 大磯城山公園 管理事務所**  
 〒259-0111 神奈川県大磯町国府本郷551-1  
 電話 0463-61-0355

神奈川県平塚土木事務所 道路都市課  
 〒254-0073 神奈川県平塚市西八幡1-3-1  
 電話 0463-22-2711（代表）



公益財団法人 神奈川県公園協会 大磯城山公園

## 旧吉田邸とは

旧吉田茂邸は、明治17年に吉田茂の養父吉田健三が別荘として建てたもので、吉田茂が昭和19年頃から、その生涯を閉じる昭和42年までを過ごした邸宅です。

政界引退後も多くの政治家が「大磯詣」を行い、また、元西独首相アデナウアー氏や、当時の皇太子殿下と同妃殿下など、国内外の要人が招かれました。吉田茂没後には、大平首相とカーター大統領の日米首脳会談が実施されるなど、近代政治の表舞台としても利用されました。

豪壮で近代的な数奇屋檜造りの本邸は、建築家吉田五十八の設計のもと、京都の宮大工により建築されました。日本庭園は、世界的作庭家、中島健が設計したもので、本邸周辺部分は、日本庭園研究家の久恒秀治によって造られました。

吉田茂がよく散歩をしていたといわれる庭には、心字池や築山のある日本庭園、松林、竹林のほか、バラ園、サンルームがあります。また、日本庭園にはあまり用いられないカナリーヤシが植えられるなど、海外赴任生活の長かった吉田茂の嗜好の多様性、様式にとらわれない人間性が色濃く反映された庭園となっています。

## 日本庭園

昭和36年頃に完成した日本庭園は、中心となる心字池を邸宅の正面に配置した、池泉回遊式の庭園です。庭園設計者である中島健は、数奇屋建築の本邸との調和や花を愛した吉田茂の嗜好をふまえ、様々な草花やツツジ類、ウメなどを多く取り入れ、色彩豊かな庭づくりをおこなったと考えられます。

年月を経て庭全体で樹木が大きく生長し、風格がでてきた一方で、中低木の肥大化により、本来の空間構成や景観が損なわれていたため、建物と一体となった庭園を創出した昭和40年代当時の景観の復原を目標として整備を行いました。

※池泉回遊式庭園：日本庭園の形式の一つで、大きな池を中心に、その周囲に園路を巡らして、築山、池中に設けた小島、橋、名石などで各地の景勝地を再現し、周囲を回遊して鑑賞する庭園。

## 内門（兜門）

サンフランシスコ講和条約締結を記念して建てられた門で、別名「講和条約門」ともいわれます。また、軒先に曲線状の切り欠きがあり、兜の形に似ていることから「兜門」とも呼ばれます。

京都の裏千家の兜門と同じ製作者を京都から呼び寄せて造られ、昭和29年に完成しました。屋根は「檜皮葺き」という、清水寺や出雲大社でも見られる伝統的技法が用いられており、消失を免れた貴重な建築物です。

昭和57年に葺き替えがされていましたが、屋根や壁、建具などの老朽化が著しかったため、平成23年度に歴史的・文化的資源の保存を目的に、伝統的工法を用いて修復しました。



修復後の内門（屋根面積：34㎡ 建築面積：9.44㎡）  
登録有形文化財 平成31年3月登録

## 吉田茂銅像

昭和58年に地元の有志の方々によって建立されました。サンフランシスコ講和条約締結の地、サンフランシスコと首都ワシントンの方角に顔を向けて設置されたと言われています。銅像付近からは眺望が良く、箱根山、伊豆半島、相模湾などを一望できます。



吉田茂と本邸（昭和41年6月撮影）  
吉田五十八によるモダンな数奇屋建築と、中島健による明るくシンプルな日本庭園が調和した景観を形づくっています

## バラ園

昭和36年頃、日本庭園作庭とほぼ同じ時期、現在の駐車場の敷地に、バラ園がつけられました。このバラ園は吉田茂の自慢であり、「プリンセスミチコ」がここで栽培され、全国に広まったことでも知られています。この他にも、バラ愛好家が欲しがるといわれる品種が多数植えられていたと伝わっています。

バラ園の敷地は、昭和54年のカーター大統領・大平首相の日米会談で旧吉田茂邸が利用された際に駐車場化され、面積は大きく縮小しました。

公園整備にあたって、プリンセスミチコをはじめ、吉田茂存命時に存在した品種をリスト化して再び植栽し、当時の雰囲気を演出しています。



プリンセスミチコは、濃いオレンジ色の八重咲き中輪の花が咲く品種で、皇太子ご成婚を記念し、贈られたと言われています。



【吉田茂存命時に存在した主な品種】  
ピース、マーガレット、ホワイト・ゴールド、シャルル・マレラン、スパニッシュ・ビューティー、プリンセス・ミチコ、プリンセス・セツコ、コンラッド・アデナウアー、エリザベス、ケネディー・フジ、ケネディー、マダム・バタフライ、ピノキオ、ホワイトピノキオ、ゴールドンドン、マリア・カラス



## サンルーム

旧吉田茂邸の離れのような形で、庭の池に張り出すように、当時珍しかった曲面ガラス張りのサンルームがあります。室内には熱帯植物のほか、ソファやテーブルが置かれていました。

このサンルームは、耐震上の課題から、人が入ることができないため、外観保存としています。



登録有形文化財 平成31年3月登録

## 菜園広場

かつて菜園として利用されていました。戦時中はサツマイモや野菜、戦後はイチゴや陸稲のモチ米が栽培され、正月の餅用としていたと言われています。

## 七賢堂

元々、明治36年に伊藤博文が、明治維新の元勳のうちの岩倉具視・大久保利通・三條実美・木戸孝允の4人を祀った四賢堂を、自身の邸宅「滄浪閣」に建てたものでした。伊藤博文の死後、梅子夫人により伊藤博文を加えた5人が祀られ「五賢堂」となりました。昭和35年に吉田茂邸に移設され、昭和37年に吉田茂が西園寺公望を合祀し、吉田茂の死後、昭和43年に佐藤栄作の名によって吉田茂が合祀され、「七賢堂」となりました。

内門やサンルームとともに、焼失を免れ、旧吉田茂邸の歴史を感じさせる貴重な建築物です。

正面の扁額「七賢堂」の文字は、佐藤栄作元首相が書いたものです。



登録有形文化財 平成31年3月登録